

スポーツ社会学(1)(2)		講義	講師 菅谷 美沙都	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの選択必修科目 スポーツトレーナーコースの専門選択科目 柔道整復師コースの教養選択科目 救急救命士コースの教養選択科目 教職科目	科目ナンバリング	11312101 12220117 13220118 11532104 12532104 13532104	

1. 授業のねらい・概要

オリンピックやワールドカップなど、世界的なスポーツイベントに対する国民の関心の高まりに象徴されるように、現代においてスポーツは強大な社会現象あるいは文化現象となりつつある。現代社会における生活や健康、さらには生きがいや福祉というキーワードはますます重要になっており、スポーツは私たちにとって必須の生活文化となりつつある。

人々はなぜスポーツを実施したり観戦したりするのだろうか。現代社会におけるスポーツの意味や価値をどのように理解するかは、種々のスポーツ指導者やスポーツ関連の職を目指すものにとって、専門性を問う基礎的な教養として非常に重要なことである。スポーツの起源や発展過程を歴史的な文脈で理解し、スポーツが人間や社会にとってどのような文化的な価値を有しているのか、社会学的な視点からの理解を深める。

2. 授業の進め方

授業ではレジュメを配布する。また、隔回授業最後にリアクションペーパーを提出し、授業内容の理解度を確認する。適宜、社会におけるスポーツの課題に関する新聞記事や資料を配布する。

3. 授業計画

1. オリエンテーション(授業の進め方、成績と評価について等) 2. スポーツの概念と歴史①(スポーツとは何か、スポーツの歴史的発展) 3. スポーツの概念と歴史②(スポーツの社会的システム) 4. 文化としてのスポーツ①(日本人のスポーツ観) 5. 文化としてのスポーツ②(スポーツマンシップとフェアプレイ) 6. 社会の中のスポーツ①(スポーツの多様化) 7. 社会の中のスポーツ②(日本のスポーツプロモーション、スポーツとジャーナリズム) 8. 社会の中のスポーツ③(スポーツの産業化、スポーツと経済)	9. 学校の運動部活動をめぐる問題① 10. 学校の運動部活動をめぐる問題② 11. みるスポーツとは何か(スペクテイタースポーツの理解) 12. 障がい者とスポーツ 13. こどものスポーツ環境を考える 14. スポーツと暴力の社会学 15. 現代社会におけるスポーツの課題(新しいスポーツのかたち)
---	---

4. 準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業時に配布するレジュメや資料等を復習し、疑問点を明確にしておくこと。また、今回の講義内容に関する情報収集をしておくこと(新聞記事などを事前に配布することもある)。これらの自主学修には2時間以上が必要である。

5. 課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

試験実施の直後、解答のポイントや評価の基準に関する説明を行う。また、リアクションペーパーについては、授業内で優秀な回答例を紹介し評価の基準等の解説を行う。

6. 授業における学修の到達目標

スポーツの文化的な価値や意義を理解し、社会学の視点から現代社会におけるスポーツの在り方を思考する力を身につける。

7. 成績評価の方法・基準

期末試験（50%）、授業時におけるリアクションペーパー（30%）、授業態度（20%）をみて総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

教科書は特に指定しない。適宜、資料・プリントを配布する。

参考文献：森川貞夫・佐伯年詩雄 編著「スポーツ社会学講義」（大修館書店，2009）

山田明編 「未来を拓くスポーツ社会学」（みらい，2020）

9. 受講上の留意事項

特になし。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。